

- 24日、EUによるモルドバへの査証廃止に関する行動計画の付与。

A．主な動き

1．内政

▼大統領選挙実施日に関する動き

- ・22日、ギンブ自由党党首は、大統領選挙は昨年12月28日のルプ大統領代行選出から2ヵ月後の2月28日までに実施する必要があると発言。
- ・25日、サルブ憲法裁判所共産党全権は、大統領選挙の実施日はヴォローニン前大統領が退任してから2ヵ月以内との憲法解釈も可能とし、大統領選挙実施日の基準となる「2ヵ月以内」の起点につき憲法裁判所に解釈を請求。これに関し、27日、憲法裁判所は、2月8日に協議を実施すると発表。

▼大統領選挙に向けた動き

- ・22日、ルプ大統領代行は、大統領選出に協力する意思が無く、再度の議会選挙実施を目論んでいると共産党を非難。
- ・24日、ヴォローニン前大統領は、ルプ大統領代行のみが大統領候補となるのであれば、共産党が投票においてA EIに協力する意向は無く、大統領選出失敗の責任はルプ大統領代行が全て負うことになる発言。
- ・24日、ペトレンコ共産党議員は、政党と無関係な人物を大統領に選出すべきとの共産党の提案がA EIに受け入れられない場合、再度の議会選挙実施は不可避であると発言。これに関し、フィラト首相は、共産党提案の政党に属さない人物の大統領選出は非現実的であると発言。
- ・25日、ヴォローニン前大統領は、クジミン駐モルドバ露大使と会談。再度の期限前議会選挙実施の回避にむけた努力の必要性等につき協議。
- ・26日、A EI各党代表は、第1回A EI評議会を開催。大統領選出における協力の可能性等につき近日中に共産党代表との協議を行うことを決定。
- ・26日、共産党議員は、大統領選挙においてA EIからの候補に共産党議員が賛成票を投じることがないよう徹底することを主な目的とした宣誓書に署名。

▼新たな任命等に関する動き

- ・22日、ルプ大統領代行は、ポポフ外務・欧州統合次官を外政担当大統領補佐官に任命する可能性に言及。
- ・26日、政府は、国務大臣に代わり新たに設立された官房長官のポストにボディウ前国務大臣を指名。

▼その他

- ・27日、報道各紙は、ルーマニア国籍を所有しているブラホドニク議会第一副議長（民主党所属）が「ウリニチ」というルーマニア語の姓を有しており、二重国籍者の姓名は他の国

籍国における姓名と一致させなければならないとするモルドバ国内法に違反している旨報道。ルプ大統領代行及びフィラト首相はコメントを拒否。

2．経済

- ・22日、IMFは、ゲオルギエフ氏を団長とするミッションが2月2日～16日に訪問予定と発表。
- ・26日、国家エネルギー規制庁は天然ガスの消費者向け料金を14.3%、電力会社向け料金を15%、ガス供給会社向け料金を18.6%値上げすることを決定。
- ・27日、フィラト首相は、暖房費に対する貧困層向けの補助金を3月まで継続する旨発言。

3．外政

▼24～25日、マルムストロムEU内務担当委員の来訪

- ・24日、マルムストロムEU内務担当委員は、フィラト首相と会談、EU査証免除に関する行動計画を手交。同行動計画に関し、ルプ大統領代行は、査証廃止実現の具体的時期について話すのは時期尚早とコメント。
- ・マルムストロム委員、レアンカ外務・欧州統合相、シューベル駐モルドバEU大使らは、国際会議「東方パートナーシップ対象国のストックホルム・プログラムへの寄与」に参加。

▼その他

- ・24日、フィラト首相は、メルケル独首相と電話会談。二国間関係、モルドバの欧州統合及び沿ドニエストル問題解決につき協議。
- ・25日、ルプ大統領代行は、スタヴィラ駐ウクライナ・モルドバ大使の駐トルクメニスタン大使兼任他、複数のモルドバ大使の兼任に関する大統領令に署名。

4．沿ドニエストル

- ・21日、シューベル駐モルドバEU大使は、ライチャーク前スロバキア外相が駐モルドバEU特別代表に任命された旨発表。
- ・22日、クジミン駐モルドバ露大使は、沿ドニエストル問題は解決に向けた対話の準備が整った段階にはあるが、具体的な進展は何ら見られないと発言。
- ・26日、ミジェイ駐モルドバEU特別代表は、ヤストレブチャク沿ドニエストル「外相」と会談。ヤストレブチャク「外相」は、ミジェイ特別代表の任期終了に伴い、沿ドニエストル問題解決及びEU沿ドニエストル間の協力に関し、謝意を表明。

B . その他の動き

1 / 25 (火)

理事会(EAPC)参謀総長会合に参加

・ドミニク参謀総長は、NATO欧州・大西洋パートナーシップ

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。
(了)